

広報広聴関係について

各種事業名	概要	開催場所	対象者	内容	教育委員会関係件数 (H29.8定例教育委員会会議以降新たに市のホームページに公開されたもの)
ドンドン語ろう!	市長が各区に向き、まちづくりについて直接市民と対話する。	各区公民館ホール等	各区内にお住まいの方、勤務されている方	まちづくりについて〔市長〕意見交換(市長、出席者) (平成27年度開始)	2
市民の声	市民からのまちづくりについての意見や提案を市政に反映させる。	/	どなたでも	市民が、市民センターなどに置いてある緑の封筒で意見や提案を送る。	2
				市長への手紙の電子メール版。市民がファクスや電子メールにより意見や提案を送る。	

各種事業名	開催日・受付日	提案・要望内容	回答内容（市長回答）
市民の声	1 H29 5月	<p>家庭訪問について</p> <p>子供の小学校の家庭訪問の際に、先生にお土産を渡す習慣があるとの話を友達から聞いた。 その友達も別の方から聞いたとのことで、去年までは何も渡していなかったけれど、今年、先生が帰る際に渡したところ、当たり前のように、とくに断ることもなく、受け取って帰ったとのことであった（2名とも）。</p> <p>私は他県から引っ越してきたが、その時は、家庭訪問の際、先生が家に上がることなく、玄関先で話して帰るため、お茶を出すこともなかった。 学校からも、事前にお茶やお菓子など出さないでくださいとの連絡があっていた。 親からしてみれば、自分の子と別のお子さんとの間に差ができることを気にしてしまうため、できれば学校側から事前に断るよう、市の方から指導してほしい。</p>	<p>今回ご意見をいただきました家庭訪問の件につきまして、学校に確認をいたしました。 今後の対応として、学校の全職員に今回の件を伝え、お土産等受け取ることをしないよう指導を徹底するというものでした。 また、来年度、家庭訪問についての学校からのお知らせのプリントに、お土産等の準備は不要であることを明記するとのことでした。 お土産を渡すということに関しましては、習慣であるとまでは考えておりませんでした。子どもさんがお世話になるのでという気持ちから、お土産をお渡しになる保護者もいらっしゃるようです。 先生のほうも、せっかく準備されたものをお断りするの、という気持ちから受け取る場合もあったようです。 しかし、そのことで、保護者に不必要なお気遣いをさせてしまうことは、お互いに本意なことになりません。 また、他県の家庭訪問では、玄関先でのお話だったということですが、本市では、家庭訪問は、先生が子どもさんのことについて保護者からお話を聞かせていただき、子どもたちを理解した上で学級経営に生かしていく、またとない機会と考えております。 じっくりとお話をお聞きするためにも、お家の中への訪問にご協力いただければと思います。 もちろん、その際、お茶やお菓子等の接待は不要であることは言うまでもありません。 委員会といたしましても、学校や保護者・地域の皆様と連携しながら、本市教育の充実を図ってまいります。</p>
	2 H29 5月	<p>中学校人事異動及び校則について</p> <p>県及び市の教育行政については、既に絶望しており、意見することも止めていたが、保護者が学校に対し不審に感じることもあっても、内申や体面などを気にして、何も言えない状況を見ると、やはり知った者の務めとして、言わねばならぬ気がする。 今回は 中学における不自然極まりない人事についてである。 同校では、昨年度の教頭が今年度校長になり、同じく教諭が教頭になっている。人事について一般人がとやかく言う事ではないとは思いますが、このような人事異動は聞いたことがない。 一部の人間によって、公立の中学校が私物化されていると思われても仕方ないのではないかと。 具体的には言わないが、この人事の特異性から、この中学校の実態は、想像に難くない。 生徒保護者に聞き取り調査などを勧める。 管理職が、希望的観測の下、真実と違う報告をするのは、どこの自治体も同じようなものだろう。</p>	<p>教職員の人事異動につきましては、教育委員会会議で議決された「異動方針」にのっとり、学校教育の充実振興を図るため、適材適所の配置に努めています。 また、管理職（校長・教頭）につきましては、教育委員会会議において十分審議のうえ決定しています。 学校の実態につきましては、学校訪問等の機会をとらえて把握するよう努めているところでありますが、ご意見等がございました場合には、学校又は教育委員会に遠慮なくお知らせいただければ対応してまいります。</p>

各種事業名		開催日・受付日	提案・要望内容	回答内容（市長回答）
ドンドン語ろう！in北部	3	H29 8月	<p>まちづくりに対する若者の意識向上を</p> <p>まちづくりに関心を持つ若い人たちが少ないように感じます。勉強や部活で忙しくまちづくりまで意識が向かないのは、仕方がないのではないかと思います。しかし、将来の担い手となる若い人たちが、学生のときからまちづくりへの意識を持ってもらいたいというのが本音です。学校の授業の一環として、市役所や地域の方に来ていただき、学生を対象としたワークショップを開催するなどして、地域の課題を見つけたり、まちづくりの意識を高めるなどの方法はとれないでしょうか。</p>	<p>学校の授業の中でまちづくりのワークショップなどを行い、地域の課題や魅力について語り合ったり、地域が大事だということを教えるのは、自分が住む地域への理解が深まり、まちづくりへの意識が高まっていくことにつながるので非常に良いことだと思います。それを教育のプログラムの中に組み込むことができないか、教育長とともに協力しながら進めているところです。</p>
ドンドン語ろう！市PTA協議会との意見交換会	4	H29 9月	<p>小中学校での基礎学力の向上</p> <p>学習面において大事なものは、小・中学校での基礎学力の向上だと思います。「できる子・できない子」の格差が広がる中、英語の教科化などの導入の方法や教え方によっては、さらにその格差は広がっていくと思います。今後はますます、市全体での基礎学力の向上が重要になるとと思いますが、どのように対応していく予定でしょうか。</p>	<p>小・中学校に関していうと、中学校が小学校より少し学力が高いのが本市の特徴ですが、すべての子どもが、その人にあった、望む進路にいけるようにしていくことが、義務教育の使命だと考えています。教える側としても、どういう学力が求められ、どのような授業が必要なのかを、考え直すべき時期にきていると思います。英語、プログラミング教育など新しい取り組みが入ってくる中で、これまでの授業も少しずつ変えていくことが必要になってきています。</p> <p>今後、教育長と協力しながら、先生方には教員研修などを通じて、これから求められる学力について、いかに指導していくのかということを読んでいただくとともに、学校を訪問する中で具体的に助言していくことを考えています。</p>